

弁天山古墳(富津市)

ここから弁天山古墳へ向かう



少し進むと前方にマウンドが見えて来た



これが弁天山古墳/二段築成の前方後円墳/5世紀後半の築造/左奥が後円部、右手前が前方部/南西側から見たところ



くびれ部の前に標柱、説明板やさまざまな石碑が立っている



史蹟辨天山古墳とある



史跡 弁天山古墳

昭和四年十二月十七日指定

弁天山古墳は、岩瀬川と小久保川に挟まれた丘陵の西端にあり、南西向きにつくられた前方後円墳で、浦賀水道を眼前にしている。

山砂を盛り上げて造ったこの墳丘は、明治初年には既にその原形を失っていたが、築造時の規模は全長八七・五メートル、後円部径五〇メートル、前方部前面幅五四・五メートル、後円部の高さ七・五メートル前後と推定されている。葺石はないが、二段に構築され、埴輪がめぐらされていた。周溝は幅の広い楯形のもので推定されている。

主体部は、後円部中央に築かれた竪穴式石室で、昭和二年に発掘調査された。長さ四・九メートル、幅九六センチの石室は、周囲に砂石の河原石を積み、板石を天井石としたもので、その中央の一枚には両小口に各一個の「縄掛突起」がある。

石室の天井石に「縄掛突起」のつけられている例は、わずかに大和地方の古式古墳に見られるだけで珍しく、学界でも注目されている。

石室内には、玉砂利を敷き、木棺を納めていたと思われるが、昭和二年の調査の折、直刀、剣、鏃、甲冑等の武器や武具類が発掘された。

この古墳の築造年代は、鉄留短甲等の鉄製武具類、あるいは古式な埴輪、竪穴式石室の形状等から、西暦五世紀の後半ごろと考えられる。ここから北方四・五キロメートルに存在する大形の前方後円墳である内裏塚古墳（全長一四メートル）と前後して築造されたものと推定され、小糸川流域を中心に展開した須恵国の豪族の墓と考えられている。

なお、昭和五〇年度より四年間に、本古墳の保存整備事業として、盛土による墳丘の保護及び覆屋による石室保護工事を実施した。

昭和五十四年三月三日 文部省

千葉県教育委員会

富津市教育委員会

富津市と塩山市との姉妹都市記念碑



小久保藩陣屋跡と記された石碑(左手)と説明坂



弁天山古墳の所在するこの地は富津市中央公民館の敷地で、明治時代初期には小久保藩が置かれ、藩邸・藩校等が所在していた場所と云う

富津市小久保字弁天ほか

こくほはんてい はんこうあと 小久保藩邸・藩校跡

富津市中央公民館付近の敷地は、明治元年(1868)9月から明治4年(1871)7月までの4年間小久保藩が置かれ、藩邸・藩校等が所在していた場所である。

初代藩主田沼意尊^{おきたか}は、江戸時代中期の10代将軍家治時代に老中であつた田沼意次^{おきつぐ}から数えて9代目の子孫に当たる。明治元年5月、旧将軍家の徳川家達^{いえきと}が駿河へ退き、府中藩が成立したのに伴って、遠江相良藩1万石の田沼意尊^{おきたか}が上総天羽郡・周准郡^{あまは すす}へ領地を移され、小久保に陣屋を構えた。意尊は翌明治2年(1869)、版籍を奉還して小久保藩知事に任じられたが、同年12月に小久保で死去し、養子の意斉^{おきなり}が家督を継いだ。明治4年(1871)7月、廃藩置県により意斉は藩知事を免じられ、小久保藩は消滅した。

小久保藩校の盈進館^{えいしんかん}は58坪ほどの建物で、明治3年10月に開校した。洋学を取り入れ、英語に加えて算術・地理・歴史も教え、士庶共学であつた。明治5年(1872)の学制頒布^{ほんぷ}によって盈進館は小久保小学校の校舎となり、その後小久保北小学校、小久保尋常小学校、大貫尋常小学校等を経て、現在の大貫小学校に至った。

平成22年(2010)11月25日

さて、左手から後円部の周りを回ってみよう



墳丘尻は道路の為に削られ、擁壁化している



これは北西側から後円部を見たところ/左手に踏切がある



後円部の背後に内房線が通っている



こんな塩梅で、こちらも墳丘尻が削られている



これは北側から後円部を見たところ



北東側から後円部を見たところ



東側から後円部を見たところ



後円部の東側も民家が迫っている



さて、もう一度南西側に戻ろう



そこで左手に前方部から後円部方向を見たところ



同じく、右手を見たところ



反対側(東側)から見たところ/右手が前方部



そこで右手を見たところ/前方に鳥居が見える



辨財天があるようだ



古墳の名の由来であろうか



こんな塩梅



振り返って前方部の墳丘を見たところ



これは南東側から見たところ/民家の背後に、左手が前方部、右手が後円部



さて、墳丘に登り、前方部から後円部を見たところ



振り返って南方向を見たところ/左前方の山の上に白く建っているのは東京湾観音らしい



くびれ部から後円部を見たところ/後円部墳頂は通路同様抉られて建物が建っている



これは竪穴式石室を保存するための覆屋



べんてんやまこふん

弁天山古墳

たてあなしきせきしつ

竪穴式石室

弁天山古墳は5世紀後半に造られた墳丘長87.5mの前方後円墳で、高さ8.5mの後円部に竪穴式石室がある。

この竪穴式石室は、付近の海岸から持ち運ばれた凝灰質砂岩の自然石によって壁面を積み上げ、その上部に加工された大形の天井石を載せたものである。石室の規模は全長4.9m、幅96cm、高さ75cm、石積み全体の範囲は南北7m、東西6mに及ぶ。

この石室で最も特徴的なのは、中央の天井石の両側に造り出された「縄掛突起」で、石を運ぶときにここに縄を掛けて引いたといわれるものである。縄掛突起は石棺の蓋石などにしばしば見られるが、石室の天井石に用いられた例は少なく、奈良県室宮山古墳むろのみやまなどの畿内の大王クラスみの古墳に幾つかの例が知られるのみである。

なお3個の天井石のうち、北側の1個は、加工しない自然石が使用されている。石室の発掘調査は昭和2年と昭和51年に行われており、鋌留甲冑・刀・剣・鉄鏃・鎌などの副葬品の破片が出土している。

なお石室は本来、地中に埋まっているものであるが、史跡としての整備に伴って、見学可能なように覆屋を設けて保存している。

平成20年7月20日

富津市教育委員会

その覆屋の中には竪穴式石室の天井石が3個並んでいる/手前は加工しない自然石、中央は両側に「縄掛突起」が造り出されたもの、奥は加工してあるが「縄掛突起」のないもの



これが「縄掛突起」



これは後円部から前方部を見たところ



右手の階段を見下ろしたところ/ここが丁度、くびれ部/前方の建物が富津市中央公民館



その公民館の前に石碑と説明板が立っていた/石碑には「大貫小学校発祥之地」とある



小久保藩盈進館概要

小久保藩の概要については、対面の案内板をご覧ください。

小久保藩盈進館校則

小久保藩の概要については、対面の案内板をご覧ください。

◆初代小久保藩知事田沼意尊が開校

〔明治二年七月 漢学校ヲ開キ 盈進館ト称ス〕

◆二代目田沼意齊により校舎新築

明治三年十月
藩庁内に三百七十坪余りを区画し五十八坪余りの校舎を新築。

翌月「此校ヲ以テ漢洋両校トナス」

県内では佐倉藩とともに最も早かった。

その影響が一九〇〇年（明治三十三）には全国屈指の教会（共立大貫）が成立。

洋学読書之事

明治三年御藩ニ於テ漢之助ヘ洋学教授可致旨命下レリ哉其才ニアラス其人ニアラスト雖トモ幼童ニ洋学初歩ノ大意ヲ教育ナスニハ或ハ可ナランカト其命ヲ奉セリ

御藩ニ於テ今般洋学校御開校之上ハ学問ヲナス諸君各々斯学ヲ情メ斯文ヲ学ヒ勉強ノ漸ヲ積ミ他日後進ヲ教育スルニ至レハ實ニ報國ノ功ナルヘシ

吾師福地氏洋学ヲ以テ生徒ヲ課シ曾テ日新舎ヲ創立シ学則ヲ設ケ聖法ヲ定ムル其要領ヲ得タリ故ニ今吾師学舎ノ例ニ倣ヒ聯損益スル所アリト云爾

洋学教師 問宮清之助識

◆「盈進館」の特徴

職員は教員一人、教授三人、事務一人、校僕二人計七人。て子弟八十人ほどであった。洋学教師の間宮清之助は、伊藤博文らに随行した福地源一郎の門下であった。校則のほか、漢学の「学科表」、洋学の「日課表」「教場之規則」などを設け、極めて整備された組織形態を目指し和洋両学を並行して教授した。

盈進館校則

- 一 受業朝六半時ヨリ八ッ時迄
- 一 但四ッ時迄素読其余質問会読之事
- 一 学生七歳ヨリ入学之事
- 一 学生貴賤ヲ論セス出席順次ニ可受業事
- 一 毎月一度試業月々品題相改候事
- 一 学業怠慢ナル者ハ嚴ニ教諭ヲ加ヘ猶不改時ハ父兄ヘ告ケテ序ニ違シ罪科ノ品有之候事
- 一 素読卒業之輩ハ会日定之通出席勉勵可有之事
- 一 但会日書目之儀ハ時宜ニ從ヒ相定候事
- 一 如事参事不時出席之事
- 一 講義之節ハ如事初メ諸職員出席聴聞之事

学科表

- 初等 大学
- 二等 中庸 論語
- 三等 孟子 易經
- 四等 書經 詩經
- 五等 礼記 小学
- 六等 蒙求 十八史略 元明史略 國史略 詩作
- 七等 左伝 國語 史記 外史 皇朝史略
- 八等 前後漢書 綱鑑易知錄 歴史綱鑑補 日本書記 日本政記
- 九等 温史 綱目 二十一史 大日本史 文作

一 学館之儀ハ天朝ノ御趣意ヲ奉シ専ラ人材教育ノ基礎トス
依之衆人此意ヲ体シ少シク余力有ラバ此館ニ入テ業ヲ受ケ
惰ル事有ル勿レ

日課表

- 初等 綴字 会話 加減乗除
- 七等 文法書素読 文法書素読 分数
- 六等 理学書素読 理学書素読 比例
- 五等 地理書素読 理学書（物理化学）会読 閉平開立
- 四等 万国歴史（世界史）講義 地理書会読 対数用法
- 三等 究理書（哲学）講義 万国歴史会読 代数学初歩
- 二等 各国史講義 究理書会読 幾何学初歩
- 一等 各国史会読 文法会読 翻訳初学 幾何学

一 等級転進ハ毎月試業ニ依テ定ムル事
初等ヨリ一等之学ヲ畢ル迄ニハ凡ニ二ヶ年半ノ歳月ヲ費スヘシ
最モ天稟之賢
應ニヨリテ迅速アル事ナレトモ中オテ以テ試ムルニ大約斯ノ如シ

教場之規則

- 一 学問ヲナス人ニハ各風習ヲ嚴格ニ教シ苛クモ無賴ノ所業アル間敷事
 - 一 教場ノ諸規則ヲ守リ教員ノ指揮ニ從フヘキ事
 - 一 修業ハ午前第八時ヨリ第十一時迄午後第一時ヨリ四時迄ニ候事
 - 一 但日曜日ハ休業ノ事
 - 一 教場ヘ出席ノ輩ハ定規則ヨリ十分前出席ノ事
 - 一 不快故障等ニテ欠席之輩ハ其後教場ヘ斯書ヲ可差出事
- 右之条々堅相守リ専ラ勉強シテ学問ヲ切望スル事ヲ心掛ヘシ

〔千葉県史料近代篇 明治初期一〕小久保県（上総國）一四八、一五〇（千葉県史編纂審議會編）引用・抜粋

当小久保藩々主田沼意尊候は徳川中期の老中田沼意次候の九代目の子孫、明治二年に此の地に移封。同年藩校盈進館創立、明治四年鹿藩置県にて閉じ。明治六年小久保小学校（後の大貫小学校）はここ藩校より開校、大貫小学校発祥の地となる。

平成二十八年三月吉日

郷土の歴史文化掘り起こし隊
小久保藩士の会
富津中央オータリークラブ

参考ホームページ

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/huttu_benten/

<https://blog.goo.ne.jp/kurihira201/e/74aeb58cf5283e66bf9252e0a1f6a0cf>

<http://futtsukayoi.net/2013/06/21/805/>

<http://2chibahatu.blog.fc2.com/blog-entry-1767.html>

<http://www.haniwakan.com/kenkyu/boso/sue.html>

<http://obito1.web.fc2.com/futtu.html>

